チョウとの出会い：テツイロビロードセセリ　160205

テツイロビロードセセリという名前からはどんなチョウなのかすぐにはイメージができないが、図鑑では実にしぶい色調だと分かる。沖縄・八重山諸島へと足を運ぶようになって、アオバセセリと同じていどのサイズのオキナワビロードセセリを目にし、テツイロビロードセセリにもぜひ会ってみたいと思うようになっていた。図鑑によれば幼虫がマメ科のデリスという植物を食べるとあるが、そのデリスがまたどのような植物なのかよく調べもしないまま、西表島の白浜という場所にはそのデリスがあって、本種も発生しているという情報は得ており、機会があれば注意してみようと頭の片隅にその思いはあった。そして、初の出会いは 1998 年の八重山諸島蝶探索旅行で訪れた西表島の、文献にある白浜地区ではなく、ずっと手前の白浜旧道であっさりと実現した。

Sep. 19, 1998：西表島白浜旧道

「蝶採集ガイド」の記載どおりに旧道を進む．沿道の草が刈り込まれたばかりで青臭い匂いがプンプンしている中を徐々に山道へと入っていく．旧道は周辺に植物が適度に茂って日陰も多く，ツマムラサキマダラが多い．新鮮な♂を捕まえてみると，標本写真のように青白色の斑点模様が発達していて前翅楕円模様がマルバネルリマダラのそれに似た横条紋を形成する個体もいて，たくさんいるからと見過ごすわけにはいかないことを知る．ヤエヤマイチモンジ♂が敏捷な飛翔で行き交うが，ネットの届く範囲にとまろうとはしない．上の方でバイクの音がしたかと思うと，白いネットをかついだ同好者がすでに探索中らしく,筆者に気づいたためなのかどうか,そのままUターンをして上側に引き返す．ここではセンダングサの花にきたテツイロビロードセセリの新鮮体も採れてさすが白浜だとうれしくなる．峠を越えると登りに比べてはるかに急な坂道が白浜へと下る．やや勾配がゆるくなった長い下り坂途中に後翅が白いヤエヤマムラサキが路面で静止している．筆者の気配を感じて道路際のネットがつかえない茂みに逃げ込む．仕方なく素手で捕まえると，今までに見たことがない♀の後翅白条紋タイプである．羽の傷みがきついが三角紙に包み込む．最後の左カーブを下ると白浜の町に出るという場所で，再びテツイロビロードセセリを採る．

Sep. 19, 1998 西表白浜

追記：1998 年はビデオカメラも持参して、オオイワガネの葉裏で、孵化した幼虫の群れがみられるその葉にいぜんしがみついているヤエヤマムラサキの母蝶を記録しているのに、テツイロビロードセセリの記録を撮っていなく、故金子實氏の記録を示しておくが、翅表にこのようなきれいな模様があることに初めて気づくとは、なんというていたらく。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.